

花 橘

「目指すはつべん！」

発行日

令和6年11月25日

第9号

発行・編集

三崎高校総務課

総務課長 上甲 真嗣

みさこう生は、総合的な探究の時間や未咲輝学を通じて、地域課題の解決に向けた取組を行っている。現在の二年生も、一年次より探究学習を行い、自分の興味・関心に応じた企業プロジェクトに取り組んできた。そして今年度、国の地域経済分析システムであるREESAのデータ分析を活用して、伊方町の地域課題解決に取り組んでいる。

昨年度の総発表会の視聴をきっかけに協力を申し出ていただいた、伊方町の町政アドバイザーの田口泰士（たぐちやすし）さんを講師に招き、ピンチをチャンスに変えるにはどうするかを学んできた。情報通信サービスを提供する株式会社S.T.N.e.tの常務取締役も務められている田口さん。年度当初から夏休み期間中も含めると十時間以上の講義のために、本校に足を運んでいただいた。考えが煮詰まった生徒の気分転換にと、炎天下にも関わらず一緒にテニスラケットを振るような熱血な方だ。田口さんから教わったことの中で、多くの生徒が口を揃えるのは「自分にはない視点を与えてくれた」ということである。人を呼び込むためには子育て支援も必要といった、人の立場で考えることが大切だと学んだ。収集した情報をいろいろな視点から考えると、多くのアイデアが浮かんだ。データから読み取れることを百個出せ、人口減少を食い止めるアイデアを百個出せ、といった百本ノック。提案するためにはエビデンス（合理的根拠）を示せ等、田口さんの指導は厳しくもあつたが、生徒一人一人に応じた声かけは優しく、社会人としての心構えを教えてくれたと生徒たちは振り返っている。また、海がきれいで静か、鳥の鳴き声も聴こえるといった、自分たちが暮らしている佐田岬半島の良さも再確認し、人が減るのはもったいないと感じるようになったとも語ってくれた。

今回の取組を通じて、地方創生☆政策アイデアコンテスト2024に応募した提案の中で、二年生六人の「佐田岬」の弱みを強みに変えて、伊方町の知名度アップで人口減少ストップ！という提案が四国ブロックの代表に選出され、十二月七日に東京の内閣府で開かれる最終審査会に出場できることになった。メンバーの生徒に話を聞くと、四国代表に選ばれ最終審査会に出るからには、日本一細長い四国最西端の佐田岬に対する自分たちの思いを審査員に伝えて、多くの人に知ってもらおうきっかけにしたいと語ってくれた。そして、田口さんが口癖にしていた言葉だと付け加えて目標を言ってくれた。「目指すはつべん！」と。

文化祭

11月3日（日）に「No Enjoy, No Life～楽しまなきゃそんそん～」のローガンのもとで文化祭を行いました。みさこう応援団、みさこう郷土芸能、吹奏楽部は迫力満点で素敵なステージを披露してくれました。クラス対抗合唱コンクールでは、この日のために練習を重ねたハーモニーが響きました。結果は3年2組が最優秀賞、2年2組が優秀賞を獲得しました。どのクラスも感動的な歌声を届けてくれました。

また、クラスごとに特色ある展示や模擬店が行われました。合わせて、地域の業者の方々による出店もあり、多くの来場者の方々に楽しんでいただくことができました。

体育館での有志発表では、思い思いの方法で自分を表現する姿が見られ、会場全体が大興奮でした。また、本校卒業生である宇都宮大空さんによるダンスステージも圧巻でした。天候にも恵まれ最高の思い出ができました。ご協力ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

